

県南思考 Vol.13



特集：広がる、子育て支援の輪

あけましておめでとうございます。清々しい新年を迎えられたことと思います。子どもたちのにぎやかな声があふれたお正月休み。元気な、その姿は人をイキイキとさせるエネルギーの源です。ところが近年、わが国では少子化の流れがやまず、南房総も例外ではありません。その背景には安心して子育てができない状況があります。子どもを育てながら働きたいと思っても、ひとむかし前と違って、周囲に子どもの面倒を見てくれる身内も少なく、預かってくれる場所もみつからない。相談相手がいなくて孤立を深めるお母さん方もいます。いま必要なのは、子どもたちを地域全体で見守り、育っていくという考え方。そんな南房総の子育て支援が着実にひろがっています。

子どもは社会のたからもの

特集：広がる、子育て支援の輪

結びの対論

木下県議×秋山県議×亀田県議

子どもたちの笑顔はたからもの。
社会全体で見守り、育していく姿勢が
いま必要なんでしょうね。

亀田 それにしても、子どもたちの、あの素直な笑顔。ハツラツとして、純粋で、無邪氣で。自分たちにもあんな時代が本当にあったのかと(笑)、そんなことを考えてしまいました。私自身、前に保険会社で働いていたとき、まわりに働くお母さん方がいて、その大変さは理解しているつもりですが、ずいぶんと子育てをめぐる環境は変わりましたね。

木下 むかしは農業、漁業をはじめ自分の家での仕事が多かったし、孫の面倒はおじいちゃん、おばあちゃんが見るのはあたり前だったんですが、いまの高齢者は忙しいでしょう。どうしてもお父さん、お母さんが自分たちだけの力で育てていかなければならない。しかも、経済的に専業主婦を続けるほどひとりのあるところは少ないのが現実で、少しでも家計を助けようと、お母さんが働きに出るケースも多い。

秋山 子どもを預けようにも、一般的幼稚園は2時に終わってしまいますから迎えに行けない。子どもたちを安心して預ける場所ができることで、お母さん方が働きやすくなるのは間違いありませんね。

亀田 南房総でも核家族化が進み、周囲に相談する人もいなくて不安をかかえながら子育てをしているお母さん方も多いはずです。よく新聞などで、子育てノイローゼなど暗いニュースが報道されますが、家の中で子どもと二人きりでいて、泣きやまなかったり、具合が悪くなったりしたらノイローゼになるのも理解できますよ。

秋山 その点、館山の「元気なひろば」のように、お母さん方が気楽に集まって、相談や悩みごとを打ち明けたり、他のお母さんから子育ての情報をもらったりする施設の存在は、ずいぶんと精神的な支えになっているはずです。

木下 我々の時代は背中でおんぶがあたりませんでしたが、いまは、前で抱っこするようになり、子育てといつてもやりかたが変わっている。いまのお母さんは、それをパソコンで吸収するんでしょうが、ああいった場所へ行けば、それこそ生きた情報が得られるし、子育ての知恵も自然に覚えられる。心理的に安心でしょうね。

亀田 子どもたちだってそうでしょう。むかしは、近所の空き地にガキ大将がいて、小さい子はずいぶん泣かされもしたんでしょうが、年の離れた子たちどうまく遊ばせていた。

木下 私も上級生が野球をやっている中に入ると、1年生、2年生は球拾いばかりやらされた(笑)。悔しい思いもしましたが、自分たち



が上級生になればこんどは立場が代わるわけで、そういうことを学んでいたんですね。いつの頃からか、子どもたちの世界もタテの系列からヨコの同学年だけのつきあいになってしまった。最近では、それもしないで家の中でひとりでテレビゲームなんかしていて、さらに孤立する子も増えてきた。世代間でもまれることは大事ですよ。

秋山 今日のいくつかの現場では、小さい子からもう少し成長した子まで、幅広い世代が一緒に遊んでいた。おそらく同じおもちゃを取りあったときに、思うようにならなくて我慢したり、人にゆづることも自然に覚えるでしょう。

木下 つまり、そこで初めて社会と出あうわけで、家の中でお母さんと一緒に二人きり、あるいは家族とだけいるより世代間でもまれることは教育上はプラスだと思いますね。

亀田 ここ何年かで、子育てをめぐる環境は急速に変わって、整備が進みました。受け入れ施設が増えたというだけでなく、情報提供やサポートという意味でもさまざまな動きがあって充実していました。

木下 ただひとつ気になったのは、土日に利用できないところもあることです。南房総の場合、観光客相手のサービス業などは、むしろ土日にご両親が働いているケースが多いでしょう。多少、スケールを小さくしても365日対応できるようなシステムが欲しいですね。

秋山 高齢者の介護施設などでは年中無休のところも多いわけですから、不可能ではないでしょう。子育てに関しては、まだそのレベルまで達していないということでしょうか。

木下 規制緩和も必要でしょう。いま幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省と管轄が異なっている。国が分かれているから県も分かれてしまっている。予算的な意味でも重複していてムダが多い。規制を緩和していけば、もっと少ない市民の税金で、効率よいサービスが実現するはずなんですよ。

亀田 これからは幼保一元化も「子ども園」として整備され、国の管轄も総務省に一本化される予定です。子どもたちの力強さは国たから。その成長をしっかりと見守っていけるような体制を作って、それを着実に実現させていく。それが我々の役割なんでしょうね。

秋山 光章（あきやま みつあき）

館山市選出
昭和21年9月21日生まれ



事務所 /
〒294-0045 館山市北条 2570-11
TEL:0470-23-5252 FAX:0470-23-5251
<http://akiyamamitsuaki.jp/>
e-mail : akiyamamitsuaki@grace.ocn.ne.jp

木下 敬二（きしたけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和23年5月17日生まれ



事務所 /
〒295-0005 南房総市千倉町牧田 164-1
TEL:0470-44-4111 FAX:0470-44-4112
<http://kishitakei.com/>
e-mail : info@kishitakei.com

亀田 郁夫（かめだいくお）

鴨川市選出
昭和27年2月16日生まれ



事務所 /
〒296-0041 鴨川市東町 665
TEL:04-7099-0190 FAX:04-7099-0191
<http://www.kameda190.com/>
e-mail : ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp

県南思考 Vol.13

発行：2014年1月11日

制作：「県南思考」制作委員会

編集：式守編集工房

デザイン：野村友紀

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本紙をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。



子どもたちには伸びやかに育って欲しい。
施設の充実、各種のサポート。
多彩なプログラムでバックアップ。



午前10時。館山市北条にある子育て支援施設「元気な広場」。

小さいお子さんの手を引いた近隣のお母さん方が続々と集まってきた。

用意された遊具と一緒に遊ぶグループ、クッションフロアが敷かれたホールを元気に駆け回る子どもたち、その様子をながめながら、コーナーのベンチで語りあうお母さんたち。

「いつでも、どんな天気のときでも気軽に子どもを連れて遊びにこれる場所。私たちはここを屋根のついた公園と、位置づけています」

そう語るのは館山市健康福祉部の岡田課長です。

土曜をのぞく、朝の9時から夕方の5時まで利用可能な同施設。

平成21年のオープン以来の利用者数が10万人を突破し、毎日、コンスタントに100名ほどの親子が訪れています。

対象は乳幼児と、その保護者たち。連れてきた0歳児にミルクを飲ませたり、一緒に弁当を食べたり。また、お年寄りがお孫さんを連れて遊びに来るなど、思い思いで時間を過ごします。

「スタッフを7名常駐させていますが、安全面のチェックを行うくらいで、基本的に皆さんに自由に使っていただいています」

この施設がユニークなのは、子どもたちはもちろんですが、それ以上にお母さんの方のための施設になっていること。子育ては誰にとっても不安が多いのですが、近く



長狭こども園。教室におじゃましたところ、たちまち子供たちに囲まれ県議たちもうれしい悲鳴

に相談相手もいないで家の中で閉じこもっていては不安はつのるばかり。

平成23年に開園した「長狭こども園」では、建物の1階を保育園、2階を幼稚園とし、あわせて90名ほどの子どもたちが通っています。

広い庭で一緒になって遊ぶ子どもたち。

小さな子どもが年上の園児たちの様子を見て、遊びかたを学んでいきます。

「保育園と幼稚園が別々だと、なかなかその子どもの情報が伝わらないんですが、ここでは一貫しているため、その子の個性がよくわかり、保護者の方と一緒に成長を見守っていくことができるんです」と、山野井希代子園長。

現在、鴨川市では同じような「幼保一元化」施設が5園、運営されています。

一方、南房総市では預かり保育と学童保育を実施しています。

しかしながら、夫婦だけで暮らす家庭が増えてくると、手助けや子育ての知恵が得られにくくなり、孤立化を招くケースもままあります。

そんな背景から、近年、急速に子育ての支援プログラムが加速してきました。

まず進められているのは小さなお子さんを預かる施設の充実。

鴨川市では、保育園と幼稚園を合体させた、いわゆる「幼保一元化」をいち早く導入させています。

「スタートは平成18年。幼稚園において早朝と夕方までの預かり保育を実施し、幼児教育・保育の充実をはかっています」と、鴨

千倉にある健田小学校。午後の2時過ぎになると、周辺にある他の3校から、授業を終えた子どもたちがそれぞれスクールバスに乗って、集まっています。

「幼稚園児から小学校の3年生までを受け入れています。その年齢のお子さんは、まだひとりで下校したり、家の中での留守番が心配です。そこで夕方の6時までお預かりするシステムになっているんです」と、藤本雅俊校長。

それぞれ宿題をしたり、好きな絵本を読んだりして思い思いにすごし、夕方、保護者が迎えに来て一緒に帰宅していきます。



「元気な広場」スタッフの古橋博子さん（右）と館山市健康福祉部の岡田賢太郎課長

（右から）鴨川市の野田純教育長、蒔苗茂教育次長、羽田幸弘福祉課長、健田小学校／藤本雅俊校長



●元気な広場
〒294-0045 千葉県館山市北条 740-1 ☎0470-23-3114
詳細は [館山市元気なひろば](#) 検索

親子の遊びと交流の場として平成21年にオープン。およそ300平方メートルという広々としたフロアには床暖房つきのクッションフロアが敷き詰められ、授乳スペースなども用意。各種相談や、さまざまなサークル活動も行われ、子育て支援のセンター的な役割を果たしている。

心のケアでお母さんを応援

各地でさまざまに実施されている子育て支援。

むろん施設を用意さえすれば問題が解決するわけではありません。健康相談や経済支援も大切ですし、心のケアやコンサルテーションも重要です。

各市には子育て支援センターが設置され、個別の相談に応じて問題解決をはかり、また館山市の「ママフレ」のように、インター

ネットを活用した支援サービスも効果をあげています。

これまで子育ては各家庭それぞれの問題として、個別に考えられてきました。

むろん、その考えに基本的に変わりはありませんが、社会の構造が大きく変わってきたいま、生まれてくる子どもたちをみんなのたからものとして、地域社会全体で育てていく、そんな考え方を求められてきているのではないでしょうか。



南房総全域の子育て事情を語り合う（左から）亀田県議、秋山県議、木下県議／子ども教育課の田原澄江課長、荒井まさ江課長補佐、座間孝幸係長



教育委員会におたずねします。

南房総の子育て支援はどのように行われているのでしょうか。館山市、南房総市、鴨川市。その3市を代表して、南房総市教育委員会／子ども教育課の皆さんに現状をうかがいました。

都会でよく目にする待機児童。 南房総の対応は十分なのでしょうか？

館山、南房総、鴨川の3市とも2013年4月1日現在で、入所希望者数が定員を下回っており、いわゆる待機児童は発生していません。しかしながら近年、南房総では三世代家族が

急速に減少しつつあります。また、経済情勢の影響を受け、共働きの子育て世帯は増加傾向にあり、仕事をしたいと考えるお母さんが増えつつあります。当然、保育園などへの入園希望者も増えるわけで、待機児童などが発生しないよう、幼保一元化をふまえた施設面での充実をはかって、整備を進めています。

お母さん方の孤立化を防ぐための サポート体制の整備は？

館山市では本文でも紹介された「元気な広場」を中心に、お子さんの成長にあわせて段階的なサポートを実施しています。南房総市では子育て支援センター「ほのぼの」に代表される施設を設け、各種の相談、情報提供を実施し、交流の場としても活用。鴨川市でも子育て支援センターで支援活動を実施しています。さらに、館山市と鴨川市にはママさんサークルがいくつもあって、それぞれお母さん同士が集まって、子育ての悩みを共有しています。3市とも子どもの医療費に対する助成も行

ており、こうしたことも安心して子育てを行うためのバックアップという意味では広義のサポートに入るのではと考えます。

今後の子育て支援を考えると 取りくむべき課題は？

本来、子育ては父親と母親が家庭の中で応分に力を合わせて行うべきものですが、残念ながら南房総では、まだ父親の育児休暇に対する認識が低く、「実質的に休暇がとれない」、「復帰がむずかしい」といった声を耳にします。意識改革が必要ですが、それ以上に問題なのは保育士不足です。これは3市に共通した問題です。市の公報、新聞、ハローワークなどを通じて積極的に確保につとめ、保育士研修の助成なども行っていますが、優秀な保育士の確保がむずかしくなっているのが現状です。いきおい、いまのスタッフに対する負荷が高まるわけで、適正なスタッフを確保し、いかに質の高い保育を確保していくか、それが急務となっています。

■世帯構成の変化（館山市）

館山市をサンプルに見てみると、ひと世代が交代した過去30年ほどの間に三世代世帯が激減したことがよくわかります。

世帯構成	昭和55年	平成22年	増減
単独	2258	6123	3865
核家族	9430	11079	1649
三世代	2814	1766	△1048
その他	1879	1199	△680